(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2017 年 7 月 6 日(06.07.2017)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2017/115673 A1

(51) 国際特許分類:
A61F 13/47 (2006.01) *A61F 13/532* (2006.01)
A61F 13/472 (2006.01) *A61F 13/533* (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2016/087655

(22) 国際出願日: 2016 年 12 月 16 日(16.12.2016)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2015-257070 2015 年 12 月 28 日(28.12.2015) JP

(71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分１８２番地 Ehime (JP).

(72) 発明者: 西谷　和也(NISHITANI, Kazuya); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７　ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 木下　英之(KINOSHITA, Hideyuki); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７　ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: フェリシテ特許業務法人(FELICITE PATENT PROFESSIONAL CORPORATION); 〒1050002 東京都港区愛宕二丁目５番１号 Tokyo (JP).

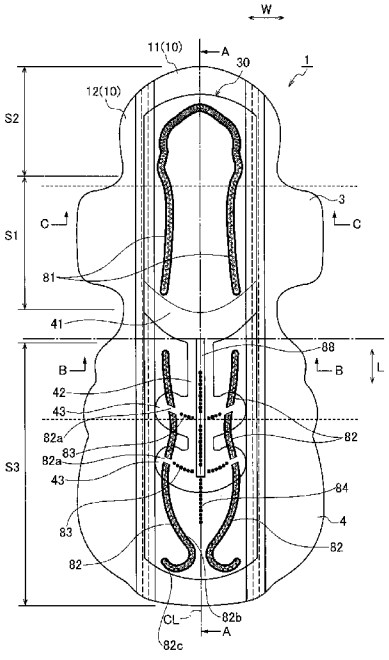
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

[続葉有]

(54) **Title**: ABSORBENT ARTICLE

(54) 発明の名称 : 吸収性物品



(57) **Abstract**: An absorbent core (31) of an absorbent article comprises: a first low mass per unit area region (41) that extends in the width direction between an excrement opening contact area and a rear side area; a second low mass per unit area region (42) that extends in the front-to-rear direction along a center line (CL) that connects centers in the width direction in the rear side area; and a front-to-rear compressed portion (88) that extends in the front-to-rear direction along the center line in the rear side area. The absorbent core in the excrement opening contact area has a higher mass per unit area than the mass per unit area of the first low mass per unit area region and the second low mass per unit area region. The second low mass per unit area region is connected to the first low mass per unit area region. At least a portion of the front-to-rear compressed portion is disposed inside the second low mass per unit area region.

(57) 要約: 吸収性物品の吸収コア（３１）は、排泄口当接域と後側域との間において前記幅方向に延びる第１低目付領域（４１）と、後側域において幅方向の中心を結ぶ中心線（ＣＬ）に沿って前後方向に延びる第２低目付領域（４２）と、後側域において中心線に沿って前後方向に延びる前後圧搾部（８８）と、を有する。排泄口当接域の吸収コアは、第１低目付領域及び第２低目付領域の目付よりも高い目付からなる。第２低目付領域は、第１低目付領域と繋がっている。前後圧搾部の少なくとも一部は、第２低目付領域内に配置される。

WO 2017/115673 A1

添付公開書類:

— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

明　細　書

発明の名称 ： 吸収性物品

技術分野

[0001]　本発明は、生理用ナプキン等の下着に装着する吸収性物品に関する。

背景技術

[0002]　経血やおりものなどを吸収するための生理用ナプキン、パンティーライナー、失禁パッド等の吸収性物品が知られている。吸収性物品のうち特に生理用ナプキンは、下着により着用者の体の方に押し当てられ、着用者の体にフィットされる（下記特許文献１）。生理用ナプキンのような吸収性物品は、表面シート、裏面シート及び吸収体を有する。吸収体は、表面シートと裏面シートとの間に設けられている。吸収体は、肌当接面側に凸状に突出する中高部を有している。中高部は、中高部以外の領域よりも厚みが厚い吸収体の一部分である。中高部は、吸収性物品の前方及び後方に、それぞれ別個に設けられている。前方の中高部と後方の中高部との間に、折り曲げ起点が設けられている。折り曲げ起点は、エンボス加工によって表面シートと吸収体とを互いに接合するための凹部である。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開２００６－２３９１６２号公報

発明の概要

[0004]　特許文献１に記載された吸収性物品では、前方の中高部は着用者の股下、すなわち膣口対向域に配置され、後方の中高部は着用者の股下よりも後ろ上方の臀部の割れ目に配置される。これにより、吸収体を臀部の臀裂に沿ってフィットさせている。

[0005]　しかしながら、着用者が寝た姿勢において、後方の中高部は着用者の臀部の真下、すなわち臀部と床との間に配置される。中高部は特に剛性の高い領域を構成する。したがって、着用者は、寝た姿勢において、違和感を覚え易

い。

[0006] そこで、寝た姿勢において違和感を覚え難く、吸収体を臀裂に沿ってフィットさせ易い吸収性物品が望まれる。

[0007] 本開示に係る吸収性物品（吸収性物品）は、互いに直交する前後方向（前後方向Ｌ）及び幅方向（幅方向Ｗ）と、着用者の排泄口と対向する排泄口当接域（排泄口当接域Ｓ１）と、前記排泄口当接域の後側に位置する後側域（後側域Ｓ３）と、少なくとも前記排泄口当接域及び前記後側域に配置される吸収コア（吸収コア３１）と、を有する吸収性物品であって、前記吸収コアは、前記排泄口当接域と前記後側域との間において前記幅方向に延びる第１低目付領域（第１低目付領域４１）と、前記後側域において前記幅方向の中心を結ぶ中心線（中心線ＣＬ）に沿って前記前後方向に延びる第２低目付領域（第２低目付領域４２）と、前記後側域において前記中心線に沿って前記前後方向に延びる前後圧搾部（前後圧搾部８８）と、を有しており、前記排泄口当接域の前記吸収コアは、前記第１低目付領域及び前記第２低目付領域の目付よりも高い目付からなり、前記第２低目付領域は、前記第１低目付領域と繋がっており、前記前後圧搾部の少なくとも一部は、前記第２低目付領域内に配置されることを要旨とする。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]一実施形態における吸収性物品の平面図である。

[図2]図１とは反対側から見た吸収性物品の平面図である。

[図3]図１のＡ－Ａ線に沿った吸収性物品の断面図である。

[図4]図１のＢ－Ｂ線に沿った吸収性物品の断面図である。

[図5]図１に示す吸収性物品の着用者に装着された状態の断面図である。

[図6]図１に示す吸収性物品の着用者に装着された状態の断面図である。

発明を実施するための形態

[0009] 本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

[0010] 互いに直交する前後方向及び幅方向と、

着用者の排泄口と対向する排泄口当接域と、

前記排泄口当接域の後側に位置する後側域と、

少なくとも前記排泄口当接域及び前記後側域に配置される吸収コアと、を有する吸収性物品であって、

前記吸収コアは、前記排泄口当接域と前記後側域との間において前記幅方向に延びる第１低目付領域と、前記後側域において前記幅方向の中心を結ぶ中心線に沿って前記前後方向に延びる第２低目付領域と、前記後側域において前記中心線に沿って前記前後方向に延びる前後圧搾部と、を有しており、

前記排泄口当接域の前記吸収コアは、前記第１低目付領域及び前記第２低目付領域の目付よりも高い目付からなり、

前記第２低目付領域は、前記第１低目付領域と繋がっており、

前記前後圧搾部の少なくとも一部は、前記第２低目付領域内に配置される、吸収性物品。

[0011] このような吸収性物品によれば、着用者が寝た姿勢において、吸収性物品の後側域は着用者の臀部の真下、すなわち臀部と床との間に配置される。後側域に形成された第２低目付領域は、比較的剛性が低いため、着用者に与える違和感は小さい。また、第１低目付領域及び第２低目付領域により、吸収コアを構成する吸収材料は、排泄口当接域と、後側域の右側部分と、後側域の左側部分との間で移動し難くなる。これにより、着用中の動作により、吸収コアを構成する吸収材料が局所的に集中することを抑制することができる。その結果、吸収性物品の着用中に、着用者の違和感を緩和することができる。したがって、着用者は、特に寝た姿勢においても、違和感を覚え難い。

[0012] 後側域に第２低目付領域が形成されているため、吸収性物品の外側から内側に向かう力により、幅方向における後側域の中心は、着用者の体に向けて突出し易い。また、第２低目付領域内に前後方向に延びる前後圧搾部が配置されている。そのため、幅方向における後側域の中心は、前後圧搾部を頂点として着用者の体に向けて突出し易くなる。これにより、後側域では、吸収性物品は、寝た姿勢において着用者の臀裂の形状に合わせて変形することが

できる。その結果、着用者は、臀部において吸収性物品との心地よいフィット感を得られる。

[0013] また、第１低目付領域によって、排泄口当接域における吸収体の変形が後側域における吸収体の変形に与える影響を抑制し、排泄口当接域と後側域とで吸収性物品が独立して変形し易くなっている。よって、吸収性物品の排泄口当接域を着用者の股下の形状に沿って配置し、かつ吸収性物品の後側域を着用者の臀部の形状に沿って配置できる。

[0014] かかる吸収性物品であって、

前記吸収コアは、前記排泄口当接域を挟んで両側に配置され、前記前後方向に延びる一対の第１サイド圧搾部と、前記後側域において前記第２低目付領域を挟んで両側に配置され、前記前後方向に延びる一対の第２サイド圧搾部と、を有し、

前記第１サイド圧搾部と前記第２サイド圧搾部は、前記前後方向において離間することが望ましい。

[0015] このような吸収性物品によれば、第１サイド圧搾部と第２サイド圧搾部が前後方向に離れているため、排泄口当接域Ｓ１における吸収体の変形が、後側域における吸収体の変形に与える影響をより効果的に抑制できる。また、第２低目付領域の両側には、前後方向に延びる一対の第２サイド圧搾部が設けられている。第２サイド圧搾部は、比較的剛性が高いため、吸収コアの変形基点となる。一対の第２サイド圧搾部の間に挟まれた第２低目付領域は、より着用者の体側に隆起し易くなる。これにより、より着用者の体になじみ、着用者に対して心地よいフィット感を与えることができる。

[0016] かかる吸収性物品であって、

前記吸収コアは、前記第２低目付領域から前記幅方向の外側に延び、前記排泄口当接域の前記吸収コアの目付よりも低い目付からなる第３低目付領域を有し、

前記第２サイド圧搾部は、前記第３低目付領域内において前記前後方向に分断された分断部を有することが望ましい。

[0017] このような吸収性物品によれば、後側域の吸収コアが第３低目付領域部を基点に変形できるため、吸収性物品が体の前後方向に沿った丸みに沿ってよりフィットし易くなる。また、第３低目付領域内に第２サイド圧搾部の分断部が設けられているため、当該分断部の剛性差によって吸収コアが変形し易い。よって、後側域の吸収コアは、第３低目付領域及び分断部を基点に変形できるため、吸収性物品が体の前後方向に沿った丸みに沿ってよりフィットし易くなる。

[0018] かかる吸収性物品であって、

前記第２サイド圧搾部は、前記分断部から後方に延びる第１領域と、前記第１領域の後端縁に連なり、前方に向かって折り返す第２領域と、を有することが望ましい。

[0019] このような吸収性物品によれば、分断部よりも後方の領域において、吸収コアの剛性を高め、吸収コアの型崩れを防止できる。特に、吸収コアの後端部近傍は、体に対して面で当たることが多く、型崩れし易い。当該吸収コアの後端部近傍に対応する分断部よりも後方の領域に、第１領域と第２領域を形成することにより、吸収コアの後端部近傍の剛性を高め、型崩れを抑制し、体に沿わせ続けることができる。

[0020] かかる吸収性物品であって、

前記吸収コアは、前記第２低目付領域から前記幅方向の外側に延び、前記排泄口当接域の前記吸収コアの目付よりも低い目付からなる第３低目付領域と、前記第３低目付領域内において幅方向に延びる幅圧搾部と、を有することが望ましい。

[0021] このような吸収性物品によれば、後側域の吸収コアが第３低目付領域及び幅圧搾部を基点に変形できるため、吸収性物品が体の前後方向Ｌに沿った丸みに沿ってよりフィットし易くなる。また、幅圧搾部を有することにより、第３低目付領域の幅方向における剛性を高めることがある。着用者によっては、吸収性物品を長時間使用し、吸収性物品がよれてしまい、体液の漏れが生じることがある。当該体液の漏れは、歩行時や寝た時に変形し易い後側域

において特に発生し易い。幅圧搾部は、比較的剛性が高いため、後側域の吸収コアの意図しない変形を抑制し、歩行時や寝た時の変形を効果的に防止できる。

[0022] かかる吸収性物品であって、

前記吸収コアの非肌面側に位置する非肌面シートには、前記吸収性物品を下着に止めるための粘着領域が設けられており、

前記粘着領域は、前記第１低目付領域よりも前方に位置する第１粘着領域と、前記第１低目付領域よりも後方に位置する第２粘着領域と、を有し、

前記第１粘着領域と前記第２粘着領域は、前記前後方向において離間することが望ましい。

[0023] このような吸収性物品によれば、第１粘着領域と第２粘着領域とが離間しているため、第１低目付領域よりも前方の領域と、第１低目付領域よりも後方の領域と、で別々の変形や動きを実現し易くなる。排泄口当接域と後側域とで、着用者の体の形状に合わせて異なる形状に、より容易に変形できる。

[0024] かかる吸収性物品であって、

前記排泄口当接域は、前記吸収コアの外側縁の厚みよりも厚みが厚い中高部を有し、

前記吸収性物品の前記前後方向の断面において、前記中高部の吸収体の後端縁から前記厚み方向に延びる中高部の吸収体の後面と、前記中高部の吸収体の非肌対向面と、が成す角度は、前記中高部の吸収体の前端縁から前記厚み方向に延びる中高部の吸収体の前面と、前記中高部の吸収体の非肌対向面と、が成す角度よりも大きいことが望ましい。

[0025] このような吸収性物品によれば、中高部の前面と肌対向面とが為す角度が比較的小さいため、中高部の前側の厚みが緩やかに変化し、着用者の排泄口よりも前方に対してフィットできる。一方、中高部の後面と非肌対向面とが為す角度が比較的大きいため、中高部の後面に折り起点が形成され易くなる。排泄口当接域と後側域の間に中高部の後端縁による変形基点を設けることができ、排泄口当接域と後側域とで、着用者の体の形状に合わせて異なる形

状に、より容易に変形できる。

[0026] かかる吸収性物品であって、

前記吸収コアは、前記後側域において前記中心線に沿って前記前後方向に延びる中央圧搾部を有し、

前記中央圧搾部の少なくとも一部は、前記前後圧搾部に重なって配置されることが望ましい。

[0027] このような吸収性物品によれば、前後圧搾部に重なって配置されることにより、後側域における幅方向中心がより薄くなり、幅方向における後側域の中心を頂点として変形した際に、体の隙間によりフィットさせることができる。また、中央圧搾部及び前後圧搾部を挟んで両側の吸収体を分断できる。吸収体を複数に分断することにより、分断しない構成と比較してよれにくく、長時間使用した際に吸収体が崩れることを抑制できる。

[0028] ＝＝＝本実施の形態に係る吸収性物品について＝＝＝

以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品ついて説明する。吸収性物品は、パンティーライナー（おりものシート）や生理用ナプキンや失禁パッド等の任意の吸収性物品であってよい。以下の実施形態では、吸収性物品の一例として使い捨ての生理用ナプキンについて説明する。

[0029] なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なる場合があることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

[0030] （１）吸収性物品の全体的構成

図１は、一実施形態における吸収性物品の平面図である。図２は、図１とは反対側から見た吸収性物品の平面図である。図３は、図１のＡ－Ａ線に沿った吸収性物品の断面図である。図４は、図１のＢ－Ｂ線に沿った吸収性物品の断面図である。

[0031] 吸収性物品１は、前後方向Ｌと幅方向Ｗと厚み方向Ｔとを有する。前後方

向Ｌは、着用者の前側（腹側）から後側（背側）に延びる方向、又は着用者の後側から前側に延びる方向である。幅方向Ｗは、前後方向Ｌと直交する方向である。厚み方向Ｔは、着用者の肌面側Ｔ１から非肌面側Ｔ２へ延びる方向であり、前後方向Ｌ及び幅方向Ｗに直交する方向である。肌面側Ｔ１は、使用時に、着用者の肌に面する側に相当する。非肌面側Ｔ２は、使用時に、肌面側Ｔ１とは反対側、すなわち着用者の肌とは反対に向けられる側に相当する。

[0032] 吸収性物品１は、排泄口当接域Ｓ１、前側域Ｓ２及び後側域Ｓ３を有する。排泄口当接域Ｓ１は、着用者の排泄口（例えば膣口）に対向する領域である。吸収性物品が下着に装着されたときに、排泄口当接域Ｓ１は、下着の股下部に位置する。つまり、排泄口当接域は、着用者の股下、すなわち着用者の両足の間に配置される領域である。

[0033] 前側域Ｓ２は、排泄口当接域Ｓ１よりも前側に位置する。前側域Ｓ２の前端縁は吸収性物品１の前端縁を規定する。後側域Ｓ３は、排泄口当接域Ｓ１よりも後側に位置する。後側域Ｓ３の後端縁は吸収性物品１の後端縁を規定する。後側域Ｓ３の前後方向Ｌの長さは、排泄口当接域Ｓ１の前後方向Ｌの長さよりも長くなっていてよい。

[0034] 排泄口当接域Ｓ１には、ウイング３が設けられていてよい。また、後側域Ｓ３には、幅方向Ｗの外側に膨らんだヒップフラップ４が設けられていてよい。ウイング３の前端縁は、ウイング３の付け根によって規定されており、最も幅方向Ｗの内側に窪んだ２つの部分のうち、前側に位置する部分に相当する。ウイング３の前端縁は、排泄口当接域Ｓ１と前側域Ｓ２との境界を規定していてもよい。ウイング３の後端縁は、ウイング３の付け根によって規定されており、最も幅方向Ｗの内側に窪んだ２つの部分のうち、後側に位置する部分に相当する。ウイング３の後端縁は、排泄口当接域Ｓ１と後側域Ｓ３との間に位置していてよい。なお、後述する第１低目付領域４１の前端縁が排泄口当接域Ｓ１の後端縁を規定していてもよく、第１低目付領域４１の後端縁が後側域Ｓ３の前端縁を規定していてもよい。

[0035] 吸収性物品１は、肌面シート１０、非肌面シート２０及び吸収体３０を有する。肌面シート１０は、吸収体３０よりも肌面側Ｔ１に設けられる。非肌面シート２０は、吸収体３０よりも非肌面側Ｔ２に設けられる。吸収体３０は、肌面シート１０と非肌面シート２０との間に設けられる。

[0036] 肌面シート１０は、表面シート１１及びサイドシート１２を有していてよい。表面シート１１は、体液等の液体を透過する液透過性のシートである。表面シート１１は、幅方向Ｗにおける吸収体３０の中央部を覆う。表面シート１１は、前後方向Ｌに前側域Ｓ２から後側域Ｓ３まで延びていてよい。

[0037] サイドシート１２は、幅方向Ｗにおける表面シート１１の外側縁を覆い、表面シート１１よりも幅方向Ｗの外側へ延びている。サイドシート１２は、表面シート１１と同様の材料から構成することができる。サイドシート１２は、幅方向Ｗにおける吸収体３０の外側縁、ウイング３及びヒップフラップ４に配置されていてよい。非肌面シート２０は、液不透過性のシートである。

[0038] 吸収体３０は、少なくとも排泄口当接域Ｓ１及び後側域Ｓ３に配置される。また、吸収体３０は、排泄口当接域Ｓ１から前側域Ｓ２まで延びていてもよい。吸収体３０は、液体を吸収する吸収材料を含む吸収コア３１と、吸収コア３１を包むコアラップ（図示せず）と、を有する。コアラップは、少なくとも吸収コア３１よりも肌面側で吸収コア３１を覆っていればよい。吸収コア３１を構成する吸収材料は、例えば、親水性繊維、パルプ及び高吸水性高分子（ＳＡＰ）から形成できる。コアラップは、例えば不織布やティッシュシートから構成することができる。

[0039] 前述したように、吸収性物品１は、ウイング３及びヒップフラップ４を有する。ウイング３及びヒップフラップ４は、排泄口当接域Ｓ１における吸収コア３１の外側縁よりも幅方向Ｗの外側に延出している。

[0040] ウイング３及びヒップフラップ４は、サイドシート１２と非肌面シート２０との積層によって構成されていてよい。ウイング３は、非肌面シート２０側に折り返し可能に構成されている。ウイング３は、使用時に下着のクロッ

チ部の非肌面側に折り返される。

[0041] ヒップフラップ４は、ウイング３よりも後側に位置し、後側域Ｓ３に設けられている。ヒップフラップ４は、使用時に折り返されず、下着と着用者の臀部との間に配置される。本実施形態では、ヒップフラップ４には吸収材料が設けられていない。この代わりに、ヒップフラップ４には、吸収材料が設けられていてもよい。

[0042] 本明細書における「吸収コアの厚み」の測定は、以下の測定方法によって行われるものとする。

[0043] 吸収性物品１がパッケージなどに封入されている場合には、パッケージから取り出し、その状態にて20℃±2℃、相対湿度60％±5％RHの雰囲気下において12時間放置したサンプルを用いる。

[0044] 測定位置は、吸収コアの製品幅方向中央部とする。測定する際は、吸収性物品が縮んだ状態ではなく、吸収性物品の伸縮性部材を伸張させた状態として測定する。また、吸収コア以外の肌面シート及び非肌面シート等、吸収コア以外の部分を取り除く。尾崎製作所（株）製のダイアルゲージ ＰＥＡＣＯＣＫを使用し、測定子には直径１０ｍｍのものを採用し、大きさが３０ｍｍ×３０ｍｍの試片を用意して、当該試片の厚みを測定する。測定器は、試片に対する測定圧が３ｇ／ｃｍ２となるように調整する。ここで、１０サンプルに対して、それぞれの状態で上述の測定を行い、その平均値を、長さとした。

[0045] また、本明細書における「吸収コアの目付及び密度」の測定は、以下の測定方法によって行われるものとする。

[0046] 吸収性物品１がパッケージなどに封入されている場合には、パッケージから取り出し、その状態にて20℃±2℃、相対湿度60％±5％RHの雰囲気下において12時間放置したサンプルを用いる。

[0047] 包装体によって包装された吸収性物品においては包装体を開封し、折り畳まれた吸収性物品を展開して、目付及び密度を測定する部分の厚み及び面積を測定する。次いで、目付及び密度を測定する部分を吸収性物品から切り出

し、切り出した部分の重量を測定する。次いで、切り出した部分から表面シート及び裏面シート等、吸収コア以外の部分を取り除き、吸収体の重量を測定する。吸収体の重量と、目付及び密度を測定する部分の面積とに基づいて目付を算出する。目付及び厚みに基づいて、密度を算出する。

[0048] また、本明細書における「長さ」の測定は、以下の測定方法によって行われるものとする。

[0049] 吸収性物品１がパッケージなどに封入されている場合には、パッケージから取り出し、その状態にて20℃±2℃、相対湿度60％±5％RHの雰囲気下において12時間放置したサンプルを用いる。次いで、シンワ測定株式会社製のスプリングメジャー（テープ：ガラス繊維入塩ビ被覆）を用いて、測定対象部位に沿わせるようにして、測定対象部位のこの状態の長さを測定する。ここで、１０サンプルに対して、それぞれの状態で上述の測定を行い、その平均値を、長さとした。

[0050] また、後述にて詳細に説明する「吸収体の中高部の角度」につき、本明細書における「吸収体の中高部の角度」の測定は、以下の測定方法によって行われるものとする。包装体によって包装された吸収性物品においては包装体を開封し、折り畳まれた吸収性物品を展開して、吸収性物品の側面から写真を撮影し、図３に示すα、βの角度を、分度器によって測定する。

[0051] （２）吸収体の詳細構成

次に、吸収体３０の構成についてより具体的に説明する。吸収コア３１は、少なくとも排泄口当接域Ｓ１に、中高部３３を有する。中高部３３は、排泄口当接域Ｓ１から前側域Ｓ２へ延びていてもよい。中高部３３は、排泄口当接域Ｓ１において、中心線ＣＬを跨いで配置されている。中心線は、吸収性物品の幅方向の中心を結ぶ線であり、前後方向に沿う線である。中高部３３は、吸収コアの外側縁の厚みよりも厚みが厚い領域を意味する。中高部３３の吸収材料の目付は、排泄口当接域Ｓ１内の中高部３３以外の領域における吸収コア３１の目付よりも高くてもよい。好ましくは、第１低目付領域４１よりも後側の吸収コア３１は、中高部３３の厚みよりも薄い。より好まし

くは、後側域Ｓ３全体の吸収コア３１は、中高部３３の厚みよりも薄い。中高部３３の厚みが比較的厚いため、着用者の排泄口にフィットさせ易い。一方、後側域の吸収コアの厚みが比較的薄く、後側域の剛性が比較的低いため、着用者の脚の動きに追従し易くなり、脚を動かした際の違和感を低減できる。中高部３３の後端縁は、第１低目付領域４１の前端縁である。中高部３３の前端縁は、後述する第１サイド圧搾部８１に隣接している。

[0052] 図３に示す吸収性物品１の前後方向Ｌに沿った断面において、中高部３３の後端縁３３Ｒから厚み方向Ｔに延びる中高部３３の後面３３ＲＳと、中高部３３の非肌対向面と、が為す角度αは、中高部３３の前端縁３３Ｆから厚み方向Ｔに延びる中高部３３の前面３３ＦＳと、中高部３３の非肌対向面と、が為す角度βよりも大きい。角度αは、中高部３３の後面３３ＲＳと、中高部３３の後端縁３３Ｒから前方に延びる中高部３３の肌対向面と、がなす角度である。また、角度βは、中高部３３の前面３３ＦＳと、中高部３３の前端縁３３Ｆから後方に延びる中高部３３の肌対向面と、がなす角度である。中高部の前面と肌対向面とが為す角度が比較的小さいため、中高部の前端縁の厚みが緩やかに変化し、着用者の排泄口よりも前方に対してフィットできる。一方、中高部の後端縁側の角度が比較的大きいため、中高部の後端縁が曲げ基点となり易く、排泄口当接域と後側域の間に中高部の後端縁による変形基点を設けることができ、排泄口当接域と後側域とで、着用者の体の形状に合わせて異なる形状に変形できる。また、中高部の後端縁が曲げ基点となり易いため、寝た姿勢において曲げ基点によって吸収体が変形し、より体になじむように変形できる。

[0053] 吸収体３０は、第１低目付領域４１、第２低目付領域４２及び第３低目付領域４３を有する。ここで、「低目付領域」は、その周囲の吸収コア３１よりも低い目付を有する吸収コア３１からなる領域、又は吸収コア３１を有していない領域を意味する。このように、「低目付領域」は、吸収コア３１の目付が零である領域を含む概念である。着用者が寝た姿勢において、吸収性物品の後側域は着用者の臀部の真下、すなわち臀部と床との間に配置される

。後側域に形成された第２低目付領域は、比較的剛性が低いため、着用者に与える違和感は小さい。また、第１低目付領域及び第２低目付領域により、吸収コアを構成する吸収材料は、排泄口当接域（又はウイング域）と、後側域の右側部分と、後側域の左側部分との間で移動し難くなる。これにより、着用中の動作により、吸収コアを構成する吸収材料が局所的に集中することを抑制することができる。その結果、吸収性物品の着用中に、着用者の違和感を緩和することができる。したがって、着用者は、特に寝た姿勢においても、違和感を覚え難い。

[0054] 低目付領域４１～４３における吸収コア３１の目付は、低目付領域４１～４３のまわりの吸収コア（中高部を除く）の目付の６０％以下であることが好ましく、５０％以下であることがより好ましい。

[0055] 吸収コア３１が「低目付領域」を有していない領域である場合でも、コアラップは、低目付領域を跨いで吸収コア３１全体を包む。この場合、吸収コア３１が複数の領域に分断されていたとしても、吸収体３０は、コアラップによって一体的に形成される。

[0056] 第１低目付領域４１、第２低目付領域４２及び第３低目付領域４３は、吸収体３０の剛性が変化する境目となる。したがって、第１低目付領域４１、第２低目付領域４２及び第３低目付領域４３は、吸収体３０が変形し易い領域に相当する。

[0057] 第１低目付領域４１は、排泄口当接域Ｓ１と後側域Ｓ３との間において幅方向Ｗに延びている。第１低目付領域によって、排泄口当接域における吸収体の変形が後側域における吸収体の変形に与える影響を抑制し、排泄口当接域と後側域とで吸収性物品が独立して変形し易くなっている。よって、吸収性物品の排泄口当接域を着用者の股下の形状に沿って配置し、かつ吸収性物品の後側域を着用者の臀部の形状に沿って配置できる。第１低目付領域４１は、前後方向Ｌにおけるウイング３の中心よりも後側かつ吸収体３０の後側縁よりも前側に設けられている。第１低目付領域４１は、前後方向Ｌにおいて、ウイング３の後端縁を跨ぐように設けられている。これにより、ウイン

グの基端部となるウイングの後端縁を前後方向に跨って第１低目付領域４１が配置されるため、着用者の脚からウイングに掛かる力を第１低目付領域で分断し、後側域に当該力が伝播することを抑制できる。

[0058] 本実施形態では、第１低目付領域４１は、第１低目付領域４１の幅方向Wの中央が後方に突出した曲線形状である。より詳細には、第１低目付領域４１の幅方向Wの中心は、第１低目付領域４１の外側縁よりも後方に位置する。これにより、第１低目付領域は、仰向け時に下着と共に後方に向かって凸状に膨らみ、身体から離れる方向に押し出される。仰向け時には、着用者の臀部の膨らみが押し潰され、潰れた部分は、股下側に移動する。第１低目付領域が身体から離れることにより、仰向け時における臀部の変形を吸収できる。よって、第１低目付領域を挟んで配置された排泄口当接域及び後側域が身体の丸みに追従する形状に維持され、吸収性物品全体が身体の丸みに沿って配置される。

[0059] 好ましくは、幅方向Wにおける第１低目付領域４１の長さは、２５ｍｍ以上である。これにより、排泄口当接域Ｓ１における吸収体３０の動きが、後側域Ｓ３に伝わることを抑制できる。第１低目付領域４１は、幅方向Wにおいて、吸収体３０の一端から他端まで延びていてよい。これにより、排泄口当接域Ｓ１における吸収体３０の動きが、後側域Ｓ３に伝わることを効果的に抑制できる。第１低目付領域４１の外側縁は、吸収コア３１の外側縁よりも内側に位置してよい。これにより、第１低目付領域の両側に、吸収材料の目付が高い領域が配置されるため、体液の横漏れを抑制できる。

[0060] 前後方向Ｌにおける第１低目付領域４１の長さは、吸収性物品１の中心線ＣＬの位置で、好ましくは１０ｍｍ以上かつ５０ｍｍ以下であり、より好ましくは１０ｍｍ以上かつ３０ｍｍ以下である。第１低目付領域の前後方向の長さが１０ｍｍ以上であるため、排泄口当接域の変形と後側域の変形とを効果的に分断できる。また、第１低目付領域の前後方向の長さが５０ｍｍ以下であるため、第１低目付領域によって身体の変形を吸収しつつ後側域によって臀部側に流れた体液を吸収できる。着用者は、臀部側に経血が流れる不安

を感じ難く、装着時の安心感を得ることができる。

[0061] 第２低目付領域４２は、後側域Ｓ３において、吸収性物品の中心線ＣＬに沿って前後方向Ｌに延びている。第２低目付領域４２は、前後方向Ｌに直線的に延びていてよい。後側域に第２低目付領域が形成されているため、吸収性物品の幅方向外側から幅方向内側に向かう力により、幅方向における後側域の中心は、着用者の体に向けて突出し易い。これにより、後側域では、吸収性物品は、寝た姿勢において着用者の臀裂の形状に合わせて変形することができる。その結果、着用者は、臀部において吸収性物品との心地よいフィット感を得られる。また、第２低目付領域４２は、第１低目付領域４１と繋がっていることが好ましい。これにより、第１低目付領域による幅方向に延びる変形基点と、第２低目付領域による前後方向に延びる変形基点と、が連動でき、より臀裂の深い位置に到達するように変形できる。また、身体の前後方向に沿って中高部と第２低目付領域による凸形状とが擬似的につながり、体液を吸収可能な領域が前後方向に連なる。よって、着用者の肌に付着した体液を迅速に吸収でき、体液が肌の表面を伝うことを抑制し、体液の漏れを低減できる。

[0062] 第２低目付領域４２の後端縁は、吸収コアの後端縁よりも前側、かつ前後方向における後側域Ｓ３の中心よりも後側に位置する。着用者の体の前後方向Ｌに沿った断面において、臀部間の溝（臀裂）は、会陰部よりも後方から尾てい骨に至る領域に存在する。吸収性物品の使用中に、第２低目付領域４２は、着用者の臀裂の領域に配置される。当該領域に第２低目付領域が当てられる。第２低目付領域４２の両側には、吸収コアの目付が第２低目付領域４２よりも高く、クッション性が高い領域が配置される。第２低目付領域４２の両側が尾てい骨に対して柔らかく当たり、着用者の肌への刺激を防止できる。

[0063] 第３低目付領域４３は、後側域Ｓ３において、第２低目付領域４２から幅方向Ｗの外側に延びている。第３低目付領域４３を有することにより、後側域の吸収コアに幅方向に延びる変形基点が形成される。吸収コアは、第３低

目付領域を基点に変形できるため、吸収性物品が体の前後方向に沿った丸みに沿ってよりフィットし易くなる。第３低目付領域４３は、第２低目付領域４２に繋がっていてよい。これにより、第３低目付領域による幅方向に延びる変形基点と、第２低目付領域による前後方向に延びる変形基点と、が連動でき、より臀部の丸みにそって配置できる。

[0064] 幅方向Ｗにおける第３低目付領域４３の外側縁は、後側域Ｓ３の吸収コア３１の外側縁よりも内側に位置する。第３低目付領域４３よりも幅方向外側に第３低目付領域よりも目付が高い吸収材料が配置され、当該吸収材料によって体液を吸収できるため、横漏れを防止できる。また、吸収コアの外側縁の目付が十分であることにより、漏れに対する着用者の不安感を払拭できる。第３低目付領域４３は、前後方向Ｌに間隔を空けて複数設けられている。よって、第３低目付領域４３による変形基点は、前後方向Ｌに間隔を空けて複数設けられ、吸収コアをより臀部の丸みに沿って配置できる。

[0065] （３）圧搾部

吸収性物品１は、少なくとも吸収コア３１が厚み方向Ｔに圧縮されることによって形成された圧搾部を有する。圧搾部が形成された領域は、圧搾部が形成されてない領域と比較して密度が高い部分である。圧搾部は、第１サイド圧搾部８１と、第２サイド圧搾部８２と、幅圧搾部８３と、中央圧搾部８４と、前後圧搾部８８と、を有している（図１参照）。

[0066] 第１サイド圧搾部８１は、少なくとも排泄口当接域Ｓ１に設けられている。第１サイド圧搾部８１は、表面シート１１と吸収体３０とが厚み方向Ｔに圧縮されることによって形成される。第１サイド圧搾部８１は、中高部３３を挟んで両側に配置され、前後方向Ｌに延びる。第１サイド圧搾部８１は、中高部３３の外側縁を規定する。

[0067] 第１サイド圧搾部８１は、吸収コア３１の前端縁付近で幅方向Ｗに向かって曲がっており、Ｕ字型に連続的に繋がっている。この代わりに、第１サイド圧搾部８１は、中高部３３の幅方向Ｗ両側に、別個に設けられていてもよい。すなわち、一対の第１サイド圧搾部８１が、互いに分断された形態で、

別個に設けられていてもよい。これにより、吸収性物品に幅方向外側から幅方向内側に向かう力がかかった際に、第１サイド圧搾部８１を介して中高部に力が伝わり易くなり、中高部を膣口に対してフィットさせ易くなる。

[0068] 第２サイド圧搾部８２は、後側域Ｓ３において、第２低目付領域４２を挟んで両側に設けられている。第２サイド圧搾部８２は、第２低目付領域４２と離間しており、第２低目付領域による凸状の変形を阻害しない。第２サイド圧搾部８２は、前後方向Ｌに沿って延びている。第１サイド圧搾部８１と第２サイド圧搾部８２は、前後方向において離間する。第１サイド圧搾部と第２サイド圧搾部の間には、第１低目付領域４１が配置される。第１サイド圧搾部と第２サイド圧搾部が前後方向に離れているため、排泄口当接域Ｓ１における吸収体の変形が、後側域における吸収体の変形に与える影響をより効果的に抑制できる。また、第２サイド圧搾部が第２低目付領域４２を挟んで両側に設けられているため、一対の第２サイド圧搾部の間に挟まれた第２低目付領域は、より着用者の体側に隆起し易くなる。吸収コアがより着用者の体になじみ、着用者に対して心地よいフィット感を与えることができる。

[0069] 第２サイド圧搾部８２は、前後方向に分断された分断部８２ａを有する。分断部は、吸収体３０と表面シート１１とが厚み方向に圧縮されていない部分である。分断部８２ａは、第３低目付領内に設けられる。第３低目付領域内に第２サイド圧搾部の分断部が設けられているため、当該分断部の剛性差によって吸収コアが変形し易い。よって、後側域の吸収コアは、第３低目付領域及び分断部を基点に変形できるため、吸収性物品が体の前後方向に沿った丸みに沿ってよりフィットし易くなる。特に、第２低目付領域が臀裂に沿って突出している場合、後側域を体の前後方向に沿った丸みに沿って変形させ難くなることがある。この場合であっても、変形基点となる第３低目付領域及び分断部によって、後側域を体の前後方向Ｌに沿った丸みに合わせて変形し易くすることができる。これにより、より着用者の体になじみ、着用者に対してより心地よいフィット感を与えることができる。

[0070] 第２サイド圧搾部８２は、分断部８２ａから後方に延びる第１領域８２ｂ

と、第１領域８２ｂの後端縁に連なり、前方に向かって折り返す第２領域８２ｃと、を有する。第１領域８２ｂは、後方に位置する分断部８２ａから後方に延び、後方に向かうにつれて幅方向内側に延びる曲線形状である。第２領域８２ｃは、前方に向かって折り返す円弧形状である。第２サイド圧搾部８２が第１領域と第２領域を有することにより、分断部よりも後方の領域における吸収コアの剛性を高めることができる。よって、長時間吸収性物品が使用された場合であっても、吸収コアの型崩れや分断を防止できる。第１領域８２ｂの前端縁から第１領域の内側縁との間において、第１領域は、前方から後方に向かって幅方向外側から幅方向内側に延びる。第１領域８２ｂの内側縁から第１領域の後端縁との間において、第１領域は、前方から後方に向かって幅方向内側から幅方向内外側に延びる。第3低目付領域よりも後方の領域は、尾てい骨に当接するように構成されている。尾てい骨付近の体の形状は、臀裂に比べるとフラットであるが、緩やかに丸みを帯びている。第１領域８２ｂの前端縁から第１領域の内側縁との間において、第１領域が前方から後方に向かって緩やかに幅方向内側に延びる曲線形状であるため、第２サイド圧搾部に挟まれた吸収コアが、緩やかに体に対して凸形状となる。そのため、尾てい骨付近において体と吸収性物品との隙間を減らし、着用者は、心地よい付け心地と吸収性物品によって包み込まれるような安心感を得ることができる。

[0071] 第２領域８２ｃの少なくとも一部は、吸収コア３１の後端縁に沿って配置されている。吸収コアの後端縁近傍は、寝た姿勢において臀部によって圧力を受けやすく、ヨレや擦れが発生し易い。吸収コア３１の後端縁に沿って第１領域と第２領域を形成することにより、吸収コアの後端部近傍の剛性を高め、長時間吸収性物品が使用された場合であっても、吸収コアの型崩れや分断を防止できる。また、第２領域８２ｃの一端（後端縁）は、第１領域８２ｂに連なり、他端（前端縁）は、第１領域８２ｂに連なっていない。第２領域８２ｃの他端が第１領域８２ｂと離間しているため、吸収コアの後端部が硬くなり過ぎず、着用者が違和感なく装着し続けることができる。また、左

右の第１領域同士が繋がっている構成においては、第３低目付領域よりも後方の領域が平らな状態を維持しようとし、第２低目付領による凸状の変形を阻害するおそれがある。しかし、左右の第１領域同士が離間しているため、第３低目付領域よりも後方の領域が緩やかに凸状に変形し、第２低目付領による凸状の変形を阻害しない。なお、第２領域の形状は、実施の形態に限定されず、吸収コアの外側縁に沿って前後方向に延びる形状であってもよい。これにより、吸収コアの後端縁及び後端縁近傍におけり外側縁の剛性を高めることができる。

[0072] 第３低目付領域４３（複数の第３低目付領域４３を有する構成にあっては、最も後方に位置する第３低目付領域）よりも後方の領域は、中央圧搾部８４及び第２サイド圧搾部８２によって、４つの区画に分けられる。より詳細には、４つの区画のうち２つの区画は、中央圧搾部８４と、後側に位置する第３低目付領域４３と、第２サイド圧搾部と、によって囲まれた区画であり、中央圧搾部８４を挟んで両側に設けられる。他の２つの区画は、第２サイド圧搾部と、吸収コアの外側縁と、後側に位置する第3低目付領域４３の後端縁と、の間に設けられる。このように複数の区画に分けられることにより、区画に分けられない構成と比較して吸収体がよれ難く、長時間使用した際に吸収体が崩れることを抑制できる。特に、第３低目付領域４３よりも後方の領域は、臀部による圧がかかり易く、吸収体がよれやすい。当該領域に、前後圧搾部８８及び第２サイド圧搾部によって複数の区画に分けることにより、長時間使用されて繰り返し臀部の圧がかかった場合であっても、吸収コアの変形を抑制し、体にフィットさせ続けることができる。

[0073] 幅圧搾部８３は、後側域Ｓ３において、第３低目付領域４３内に形成されている。比較的剛性が低い第３低目付領域内に、比較的剛性が高い幅圧搾部８３が設けられているため、剛性が高い部分と剛性が低い部分とが交互に形成され、複数の曲げ基点を設けることができる。よって、吸収コアがより多くの基点を介して変形でき、より体にフィットさせることができる。幅圧搾部８３は、複数の点状の圧搾部の集合体によって構成されており、幅方向に

延びる。幅圧搾部８３の外側縁は、第２サイド圧搾部８２よりも幅方向内側に位置する。幅圧搾部８３が延びる方向に沿って幅圧搾部８３から延ばした延長線上に分断部８２ａが配置されている。幅圧搾部８３と、分断部８２ａと、によって幅方向に延びる変形基点を形成する。比較的剛性が低い分断部と、比較的剛性が高い幅圧搾部と、によって変形基点を構成することにより、変形基点内で剛性差が生じる。よって、複数の曲げ基点を設けることができ、吸収コアがより多くの基点を介して変形でき、より体にフィットさせることができる。

[0074] また、吸収コアは、幅方向において圧搾部等を介して複数の区画に分けられる。例えば、第２サイド圧搾部を通り、かつ幅方向に延びる仮想線上において、吸収コアは、複数の区画に分けられる。具体的には、第２サイド圧搾部よりも幅方向外側の領域と、第２サイド圧搾部と第２低目付領域との間の領域、第２低目付領域の外側縁と前後圧搾部との間の領域、前後圧搾部の外側縁と前後圧搾部との間の領域と、は、剛性差によって区画される。吸収コアがより細かい区画で変形することにより、吸収コアの型崩れを防止するとともに、長時間使用した場合であっても吸収コアのよれを防止できる。

[0075] 中央圧搾部８４は、後側域において、中心線ＣＬに沿って前後方向に延びる。中央圧搾部８４は、中心線を含む領域に形成される。中央圧搾部を挟んで両側の吸収体を分断できる。吸収体を複数に分断することにより、分断しない構成と比較してよれにくく、長時間使用した際に吸収体が崩れることを抑制できる。中央圧搾部８４は、複数の点状の圧搾部の集合体によって構成される。中央圧搾部８４は、前後方向Ｌに間隔を空けて配置されている。前後方向に隣接する幅圧搾部と幅圧搾部のとの間の領域には、幅圧搾部８３が延びる方向に沿って幅圧搾部８３から延ばした延長線が位置する。幅圧搾部８３と、中央圧搾部８４同士の間の領域と、によって幅方向に延びる変形基点を形成する。中央圧搾部同士の領域は、比較的剛性が低く、着用者の動きに対して容易に変形できる。当該剛性が低い領域を含んで変形基点を設けることにより、着用者の動きに対して追従してより変形し易くなる。また、当

該剛性が低い領域を含んで変形基点を設けることにより、肌への刺激を低減できる。中央圧搾部８４の少なくとも一部は、前後圧搾部８８に重なって配置される。中央圧搾部８４の一部は、前後圧搾部８８よりも後方に位置し、前後圧搾部８８に重ならない。前後圧搾部８８と中央圧搾部が重なることにより、後側域における幅方向中心がより薄くなり、幅方向における後側域の中心を頂点として変形した際に、体の隙間によりフィットさせることができる。

[0076] 前後圧搾部８８は、後側域において、中心線に沿って前後方向に延びる。前後圧搾部８８は、第２低目付領域内に形成されている。第２低目付領域には、前後圧搾部８８及び中央圧搾部８４の両方が形成された領域、前後圧搾部８８及び中央圧搾部８４のうちいずれか一方が形成された領域、及び前後圧搾部８８及び中央圧搾部８４の両方が形成されていない領域が設けられる。前後圧搾部８８の前端縁は、第１低目付領域内に位置してよい。比較的目付が低い第１低目付領域内に前後圧搾部８８の前端縁が配置されるため、前後圧搾部の前端縁が硬くなりすぎることを抑制し、デリケートな膣口近辺に対して柔らかく接することができる。また、前後圧搾部８８の前端縁は、第２低目付領域の前端縁に一致してよい。第２低目付領域は、臀裂の開始位置（前端縁）に合わせており、第２低目付領域及び前後圧搾部８８によって臀裂の開始位置に対して吸収コアをフィットさせ、後方への体液の伝え流れを防止できる。前後圧搾部８８の後端縁は、第３低目付領域の後端縁よりも前方に位置する。前後圧搾部８８の後端縁の幅方向両側には、幅圧搾部８３の内側縁が配置される。前後圧搾部８８の後端縁よりも後方には、第３低目付領域の後端縁を境界とした剛性差が生じ、前後圧搾部８８の側方には、幅圧搾部の内側縁を境界とした剛性差が生じる。前後圧搾部８８の後端縁と周囲の領域との間で剛性差が生じ、より吸収体の変形基点として機能し易くなる。また、第３低目付領域の後端縁よりも前方の領域は、臀裂に当接し、第３低目付領域よりも後方の領域は、臀裂よりも後方に位置する尾てい骨に当接するように構成されている。第３低目付領域４３の後端縁よりも後方の吸収

コアには、前後圧搾部８８が配置されず、前後圧搾部によって変形し易く構成されていない。そのため、第３低目付領域４３よりも後方の領域の耐久性を向上させ、尾てい骨に対してフラットな状態でフィットし続け易くなる。

[0077] 第１サイド圧搾部８１、第２サイド圧搾部８２、幅圧搾部８３、及び中央圧搾部８４は、表面シート１１と吸収体３０とが肌対向面側から非肌対向面に圧縮されることによって形成されている。前後圧搾部は、吸収コア３１が非肌対向面側から肌対向面に圧縮されることによって形成されている。

[0078] （４）粘着領域

図２に示すように、吸収性物品１は、吸収性物品１を下着Ｓに止めるための粘着剤が設けられた粘着領域６０を有する。粘着領域６０は、第１粘着領域としての第１本体粘着領域６１、第２粘着領域としての第２本体粘着領域６２、ウイング粘着領域６３及びヒップフラップ粘着領域６４を有する。これらの粘着領域６１～６４は、非肌面シート２０の非肌面側に設けられている。

[0079] 第１本体粘着領域６１は、第２本体粘着領域６２よりも前方に配置されている。第１本体粘着領域６１及び第２本体粘着領域６２は、前後方向Ｌに延びている。第１本体粘着領域６１は、第２本体粘着領域６２から前後方向Ｌに離間して配置されている。第１本体粘着領域６１は、第１低目付領域４１よりも前側に位置する。第２本体粘着領域６２は、第１低目付領域４１よりも後側に位置する。ウイング粘着領域６３はウイング３に設けられている。ヒップフラップ粘着領域６４はヒップフラップ４に設けられている。第１粘着領域と第２粘着領域とが離間していることにより、第１低目付領域よりも前方の領域と、第１低目付領域よりも後方の領域と、で別々の変形や動きを実現し易くなる。排泄口当接域と後側域とで、着用者の体の形状に合わせて異なる形状に、より容易に変形できる。

[0080] 第１低目付領域４１は、厚み方向Ｔにおいて、粘着領域６１～６４と重ならない領域に配置されていることが好ましい。より具体的には、第１低目付領域４１は、第１本体粘着領域６１と第２本体粘着領域６２との間の領域に

設けられている。第２低目付領域４２は、厚み方向Ｔにおいて、粘着領域６１～６４と重ならない領域に配置されていることが好ましい。より具体的には、第２低目付領域４２は、複数の第２本体粘着領域６２どうしの間に設けられている。これにより、第１低目付領域４１及び第２低目付領域４２がより変形基点として機能し得るようになる。つまり、第１低目付領域４１及び第２低目付領域４２を挟んで隣り合う吸収コア３１が互いに独立に動きやすくなる。これにより、吸収体３０が着用者の股下及び臀部の形状に合わせてよりフィットし易くなる。したがって、より着用者の体になじみ、着用者に対してより心地よいフィット感を与えることができる吸収性物品を提供することができる。

[0081] 第２サイド圧搾部８２は、第２本体粘着領域６２と重なる領域に設けられていることが好ましい。第２サイド圧搾部８２が設けられた領域が下着に止着される。これにより、吸収コア３１が第２サイド圧搾部８２を基点に変形する際に、下着によって第２サイド圧搾部８２を支持できる。変形の基点となる第２サイド圧搾部８２が支持されるため、第２サイド圧搾部８２間の領域が突出した状態を維持し易くなる。

[0082] （５）着用中の吸収性物品

次に、図５及び図６を参照し、着用中の吸収性物品の形状について説明する。図５は、使用中の吸収性物品の、図１のＣ－Ｃ線に沿った模式的断面図である。図６は、使用中の吸収性物品の、図１のＢ－Ｂ線に沿った模式的断面図である。なお、図５及び６では、着用者の体の形状を示すラインを二点鎖線で示している。

[0083] 生理用ナプキンとしての吸収性物品１を着用する際、吸収性物品１は下着Ｓに固定される。吸収性物品１の排泄口当接域Ｓ１は、着用者の両足によって挟まれ、幅方向Ｗの外側から幅方向Ｗの内側に向かう力を受ける。

[0084] 吸収性物品１の幅方向Ｗに沿った着用者の体の断面形状は、股下近傍と臀部近傍とで異なる。具体的には、着用者の股下の陰裂(経血が出る膣口あたり)近辺の体の断面形状は、大陰唇が大陰唇の付け根よりも出っ張っており、吸

収性物品１側に突出する凸形状である。この着用者の股下域に、吸収性物品の排泄口当接域Ｓ１が対向して配置される。着用者の股下においては、排泄口当接域Ｓ１の吸収コア３１、特に中高部３３が体に沿って配置され、股下における体液の漏れを抑制できる（図５参照）。

[0085] 着用者の大陰唇より後方に位置する会陰部よりも後方には、肛門や臀裂が位置する。この会陰部よりも後方近辺の体の断面形状は、幅方向の中心が窪んだ形状である。この着用者の臀部に、吸収性物品の後側域Ｓ３が対向して配置される。

[0086] 後側域Ｓ３では、中心線ＣＬに沿って前後方向Ｌに延びる第２低目付領域４２及び前後圧搾部８８が形成されている。そのため、吸収性物品の外側から内側に向かう力により、幅方向Ｗにおける後側域Ｓ３の中心は、着用者の体に向けて突出し易い（図６参照）。これにより、後側域Ｓ３では、吸収性物品１は、着用者の臀裂の形状に合わせて変形することができる。その結果、着用者は、臀部においても、吸収性物品１との心地よいフィット感を得られる。

[0087] ここで、吸収性物品１は、排泄口当接域Ｓ１と後側域Ｓ３とで、着用者の体の形状に合わせて異なる形状に変化しようとする。第１低目付領域４１は、排泄口当接域Ｓ１における吸収体３０の変形が、後側域Ｓ３における吸収体３０の変形に与える影響を抑制している。すなわち、第１低目付領域４１によって、排泄口当接域Ｓ１と後側域Ｓ３とで、吸収性物品が独立して変形し易くなっている。

[0088] 以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0089] なお、２０１５年１２月２８日に出願された日本国特許出願第２０１５－

２５７０７０号の全内容が、参照により、本明細書に組み込まれる。

産業上の利用可能性

[0090] 寝た姿勢において違和感を覚え難く、吸収体を臀裂に沿ってフィットさせ易い吸収性物品を提供することができる。

符号の説明

[0091]

１	：吸収性物品
１０	：肌面シート
２０	：非肌面シート
３１	：吸収コア
３３	：中高部
４１	：第１低目付領域
４２	：第２低目付領域
４３	：第３低目付領域
６１	：第１本体粘着領域
６２	：第２本体粘着領域
８１	：第１サイド圧搾部
８２	：第２サイド圧搾部
８３	：中央圧搾部
８４	：幅圧搾部
８８	：前後圧搾部
Ｌ	：前後方向
Ｗ	：幅方向
Ｔ	：厚み方向
Ｓ１	：排泄口当接域
Ｓ２	：前側域
Ｓ３	：後側域
ＣＬ	：中心線

請求の範囲

[請求項1] 互いに直交する前後方向及び幅方向と、

着用者の排泄口と対向する排泄口当接域と、

前記排泄口当接域の後側に位置する後側域と、

少なくとも前記排泄口当接域及び前記後側域に配置される吸収コアと、を有する吸収性物品であって、

前記吸収コアは、前記排泄口当接域と前記後側域との間において前記幅方向に延びる第１低目付領域と、前記後側域において前記幅方向の中心を結ぶ中心線に沿って前記前後方向に延びる第２低目付領域と、前記後側域において前記中心線に沿って前記前後方向に延びる前後圧搾部と、を有しており、

前記排泄口当接域の前記吸収コアは、前記第１低目付領域及び前記第２低目付領域の目付よりも高い目付からなり、

前記第２低目付領域は、前記第１低目付領域と繋がっており、

前記前後圧搾部の少なくとも一部は、前記第２低目付領域内に配置される、吸収性物品。

[請求項2] 前記吸収コアは、前記排泄口当接域を挟んで両側に配置され、前記前後方向に延びる第１サイド圧搾部と、前記後側域において前記第２低目付領域を挟んで両側に配置され、前記前後方向に延びる第２サイド圧搾部と、を有し、

前記第１サイド圧搾部と前記第２サイド圧搾部は、前記前後方向において離間する、請求項１に記載の吸収性物品。

[請求項3] 前記吸収コアは、前記第２低目付領域から前記幅方向の外側に延び、前記排泄口当接域の前記吸収コアの目付よりも低い目付からなる第３低目付領域を有し、

前記第２サイド圧搾部は、前記第３低目付領域内において前記前後方向に分断された分断部を有する、請求項２に記載の吸収性物品。

[請求項4] 前記第２サイド圧搾部は、前記分断部から後方に延びる第１領域と

、前記第１領域の後端縁に連なり、前方に向かって折り返す第２領域と、を有する、請求項３に記載の吸収性物品。

[請求項5] 前記吸収コアは、前記第２低目付領域から前記幅方向の外側に延び、前記排泄口当接域の前記吸収コアの目付よりも低い目付からなる第３低目付領域と、前記第３低目付領域内において幅方向に延びる幅圧搾部と、を有する、請求項１から請求項４のいずれかに記載の吸収性物品。

[請求項6] 前記吸収コアの非肌面側に位置する非肌面シートには、前記吸収性物品を下着に止めるための粘着領域が設けられており、

前記粘着領域は、前記第１低目付領域よりも前方に位置する第１粘着領域と、前記第１低目付領域よりも後方に位置する第２粘着領域と、を有し、

前記第１粘着領域と前記第２粘着領域は、前記前後方向において離間する、請求項１から請求項５のいずれかに記載の吸収性物品。

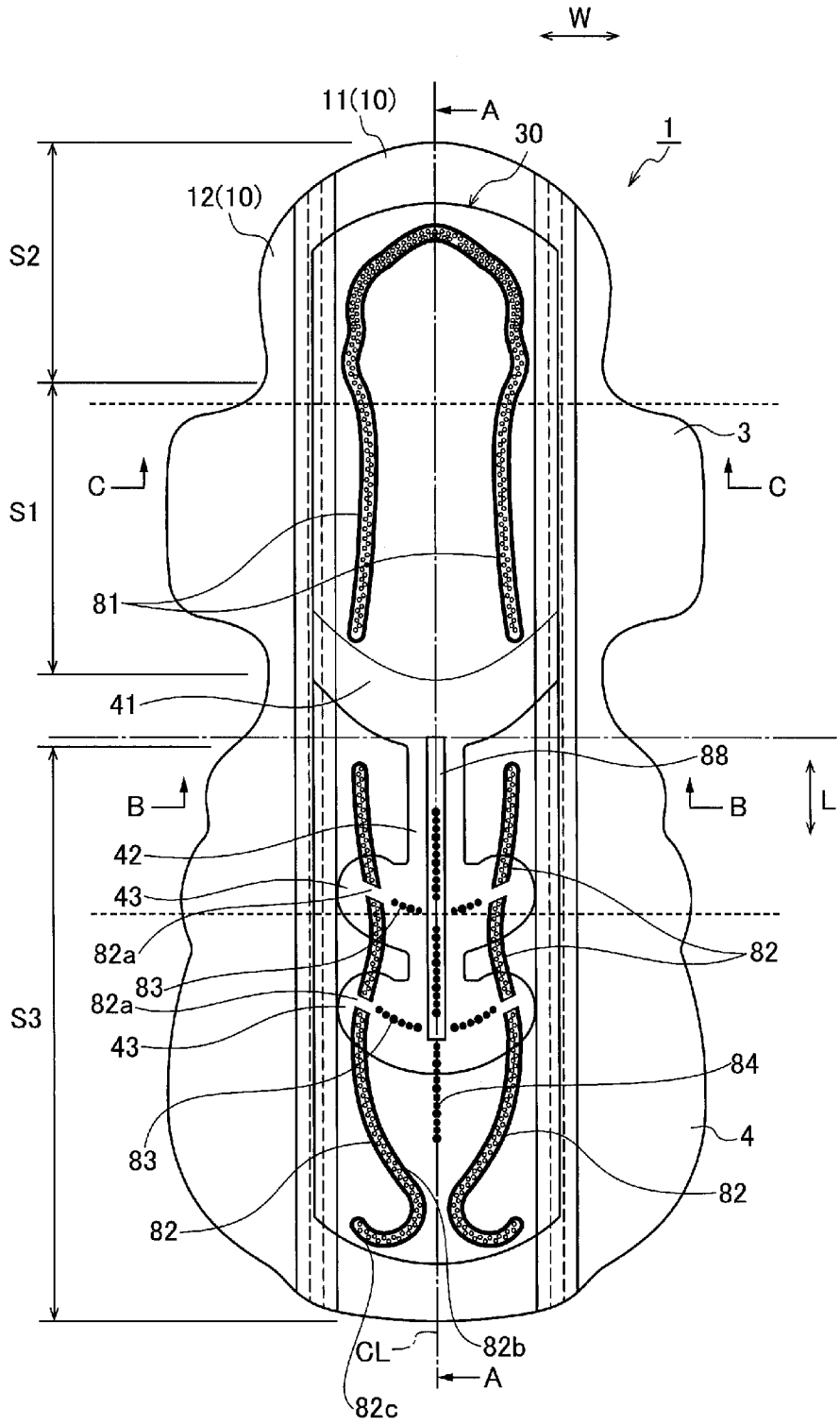
[請求項7] 前記排泄口当接域は、前記吸収コアの外側縁の厚みよりも厚みが厚い中高部を有し、

前記吸収性物品の前記前後方向の断面において、前記中高部の吸収体の後端縁から厚み方向に延びる中高部の吸収体の後面と、前記中高部の吸収体の非肌対向面と、が成す角度は、前記中高部の吸収体の前端縁から厚み方向に延びる中高部の吸収体の前面と、前記中高部の吸収体の非肌対向面と、が成す角度よりも大きい、請求項１から請求項６のいずれかに記載の吸収性物品。

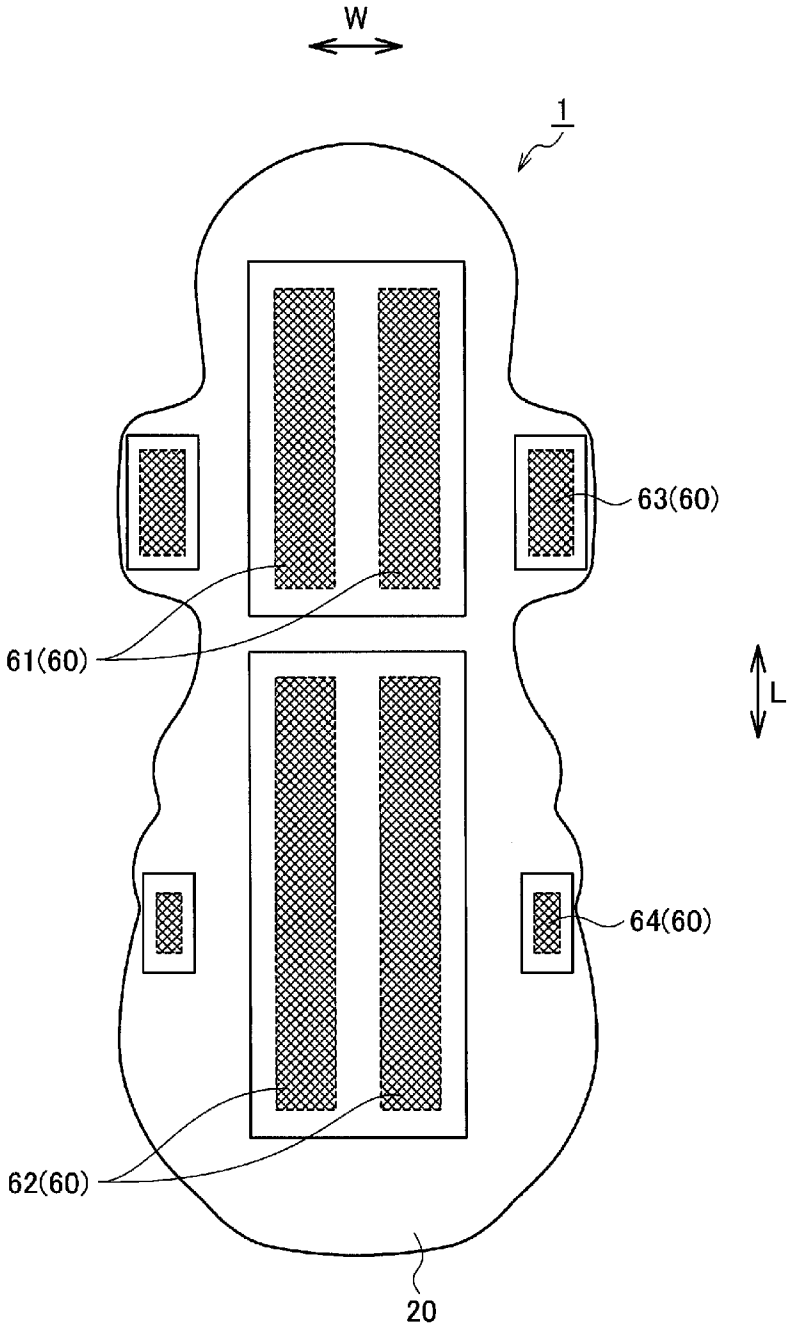
[請求項8] 前記吸収コアは、前記後側域において前記中心線に沿って前記前後方向に延びる中央圧搾部を有し、

前記中央圧搾部の少なくとも一部は、前記前後圧搾部に重なって配置される、請求項１から請求項７のいずれかに記載の吸収性物品。

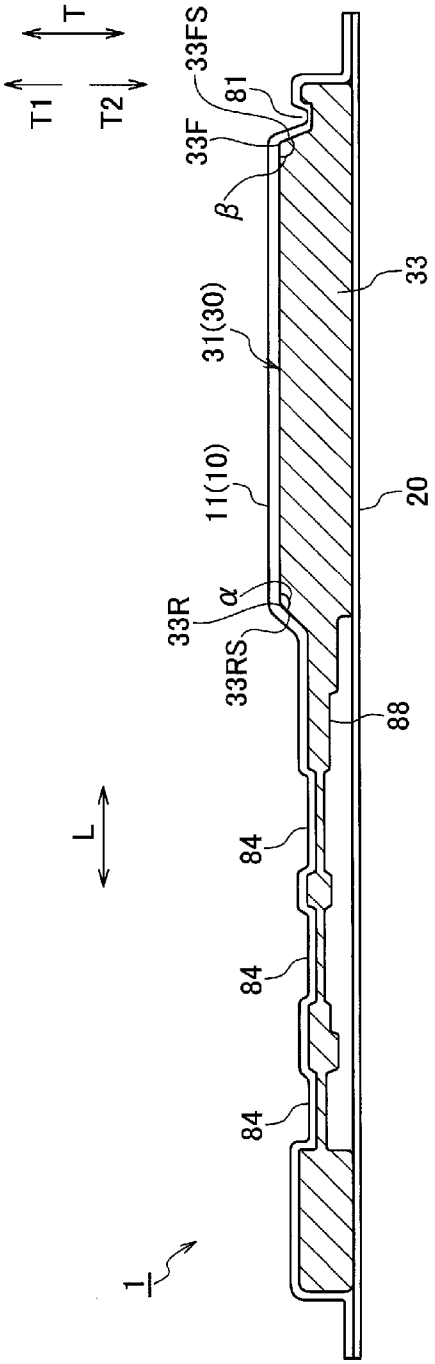
[図1]


W
11(10)
A
30
1
12(10)
S2
3
C
C
S1
81
41
88
B
B
L
42
43
82a
82
83
82a
S3
43
84
4
83
82
82
CL
82b
A
82c

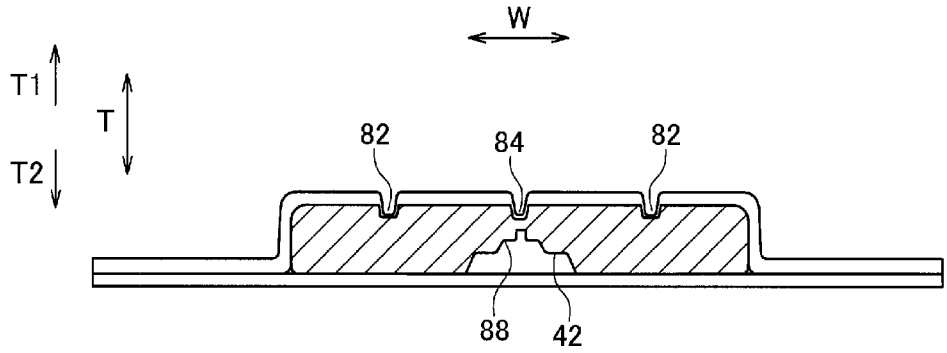
[図2]



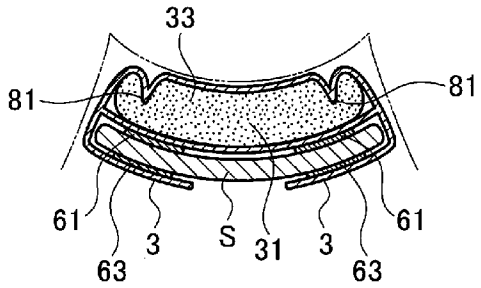
[図3]



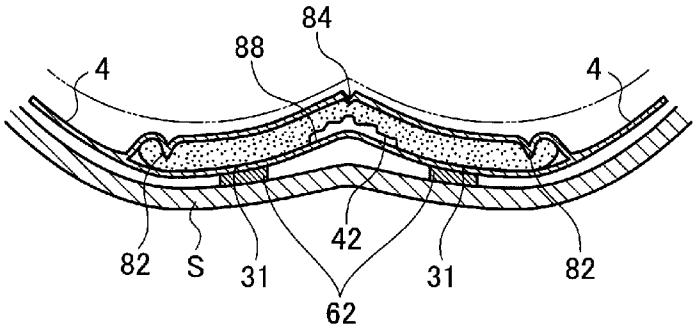
[図4]



[図5]



[図6]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2016/087655

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
A61F13/47(2006.01)i, *A61F13/472*(2006.01)i, *A61F13/532*(2006.01)i, *A61F13/533*(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
A61F13/47, A61F13/472, A61F13/532, A61F13/533

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2017
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2017	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2017

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2012-050497 A (Daio Paper Corp.), 15 March 2012 (15.03.2012), & US 2013/0165885 A1 & WO 2012/029851 A1 & EP 2612636 A1	1-8
A	JP 2008-183160 A (Daio Paper Corp.), 14 August 2008 (14.08.2008), & WO 2008/093659 A1	1-8
A	JP 2000-189456 A (Kao Corp.), 11 July 2000 (11.07.2000), (Family: none)	1-8
A	JP 2014-226458 A (Uni-Charm Corp.), 08 December 2014 (08.12.2014), (Family: none)	1-8

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
23 February 2017 (23.02.17)	07 March 2017 (07.03.17)

Name and mailing address of the ISA/	Authorized officer
Japan Patent Office 3-4-3,Kasumigaseki,Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915,Japan	Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2016/087655

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2014-128551 A (Kao Corp.), 10 July 2014 (10.07.2014), & WO 2014/084087 A1 & CN 104507430 A	1-8
A	JP 2005-527298 A (Tyco Health Care Retail Services AG.), 15 September 2005 (15.09.2005), & US 2003/0225385 A1 & WO 2003/099182 A1	1-8

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１６／０８７６５５

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A61F13/47(2006.01)i, A61F13/472(2006.01)i, A61F13/532(2006.01)i, A61F13/533(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A61F13/47, A61F13/472, A61F13/532, A61F13/533

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報　１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報　１９７１－２０１７年
日本国実用新案登録公報　１９９６－２０１７年
日本国登録実用新案公報　１９９４－２０１７年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
A	JP 2012-050497 A (大王製紙株式会社) 2012.03.15, & US 2013/0165885 A1 & WO 2012/029851 A1 & EP 2612636 A1	1-8
A	JP 2008-183160 A (大王製紙株式会社) 2008.08.14, & WO 2008/093659 A1	1-8
A	JP 2000-189456 A (花王株式会社) 2000.07.11, (ファミリーなし)	1-8

☑　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。　☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー
「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
２３．０２．２０１７	０７．０３．２０１７

国際調査機関の名称及びあて先
日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ）
郵便番号１００－８９１５
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

特許庁審査官（権限のある職員）　３Ｂ　４０８８
西村　賢
電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３３２０

C（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
A	JP 2014-226458 A (ユニ・チャーム株式会社) 2014.12.08, (ファミリーなし)	1-8
A	JP 2014-128551 A (花王株式会社) 2014.07.10, & WO 2014/084087 A1 & CN 104507430 A	1-8
A	JP 2005-527298 A (タイコ　ヘルスケアー　リテイル　サーヴィシス　アクチェンゲゼルシャフト) 2005.09.15, & US 2003/0225385 A1 & WO 2003/099182 A1	1-8